

注目ポイント！

映画の思い出と共に町を旅する！
その地でなければ体験できない観光地づくりを推進。



入込観光客約384万人(H7)から約510万人(H17)に！
映画「男たちの大和/YAMATO」ロケセットに10ヶ月で約100万人の入場者！



千光寺新道

コラム

平成17年、観光協会会長に就任。観光イベントには自らがスタッフの一員として参加。おもてなしの心で観光客に接し、特に昨年の大和ロケセット公開の期間中は、毎週ロケセット公開現場に出て、駐車場の整理等にあたる。直接観光客の声を聞き、今後の観光客誘致に役立てている。



(社)尾道観光協会
会長 川崎 育造氏

これまでの経緯

- 平成11年(1999) 瀬戸内しまなみ海道(本州四国連絡道路尾道・今治ルート)全線開通。
おのまち文学の館開館。
- 平成12年(2000) おのまち映画資料館開館。
第1回高校生絵のまち尾道四季展開催。
- 平成13年(2001) 瀬戸内しまなみ海道観光推進協議会を設立。
観光ボランティアガイドグループ「観光パートナー尾道の会」発足。
- 平成14年(2002) まちかど観光案内所開設。
- 平成15年(2003) おのまちフィルム・コミッションを設立。
尾道商工会議所より尾道携帯観光ナビ「どこでも博物館」寄贈。
第1回写真のまち尾道四季展開催。
- 平成16年(2004) 尾道携帯観光ナビ「どこでも博物館」の活用による地域活性化調査を開始。
クレーンライトアップ事業を開始。
- 平成17年(2005) 尾道観光協会会長に川崎氏が就任。
映画「男たちの大和/YAMATO」ロケセット一般公開。
尾道を訪れた著名人の足形を市内各所に「足形みち」として整備。
- 平成18年(2006) 尾道携帯観光ナビ「どこでも博物館」の対象エリア拡大・多言語対応等の整備を開始。

主な取り組み

尾道携帯観光ナビ「どこでも博物館」

NPO法人プラットフォーム・おのみちが中心となり、石のふくろうを情報アイコンとして、携帯電話を活用した観光情報を提供。

市民自ら考え行動して収集した地域情報を提供する等、地域に根ざしたコンテンツがまちの賑わいに繋がる。さらに対象エリアの拡大や、外国人観光客への多言語による観光案内情報を提供。



観光ガイドボランティアによる案内
～文学のこみち～



クレーンライトアップ

クレーンライトアップ事業

古くからの港町、長い間市民とともに歩んできた造船所が平成15年に操業を停止。地元市民でなければ理解できない寂しさから、造船所への恩返しと尾道の風景に溶け込んだ産業遺構として、尾道のシンボルであるクレーンに新たな命を吹き込み、観光資源として利活用。尾道水道の借景として夜の尾道を演出。

「フィルムコミッション」がロケを支援



ロケ現場

造船所の空きドックを活用した「男たちの大和 / YAMATO」ロケ受入れを追い風に、18年は6月末までに既に25件が映像化。ロケ地案内図を作成し、全国へ情報発信。

ロケ支援を通じて市民の「わがまち」意識の醸成を図ることを目的に事業展開。

坂道をそぞろ歩き「足形みち」



設置された足形

地元のまちづくり団体「尾道10万人委員会」を中心に、そのメンバーの陶芸家が尾道を訪れた著名人等の足形を備前焼で製作し市内各所に設置。

観光客の回遊性を高める新たな観光資源として活用。

問い合わせ先

(社)尾道観光協会

Tel : 0848 - 37 - 9736

<http://www.ononavi.jp>

尾道市企画部観光文化課

Tel : 0848 - 25 - 7184

<http://www.city.onomichi.hiroshima.jp/>